

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立草加東高等学校) e22

目指す学校像	希望をもって自己実現に努め、社会に貢献できる生徒を育成する。
--------	--------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的学習態度を育成し、学力の向上と希望進路の実現を図る。 基本的生活習慣を確立し、部活動や学校行事等を通じて自律心と豊かな人間性を養う。 開かれた学校づくりを進め、保護者・地域との連携を深める。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況 ※ () = 昨年度の数値	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 ①進路希望実現の基盤となる学力向上のために、朝学習、補習、検定試験奨励などに取り組み、大学進学実績等で一定の成果を上げている。 ②時季に応じた系統的な進路指導が行われ、適切な進路意識を抱かしている。 ③全体的には、分かり易い授業が各教科で実践されている。</p> <p>【課題】 授業時間の確保・課題による授業の代替を措置しながら以下の課題に効果的に取り組む。 ①自学自習の習慣を拡充させて、学力向上を図り、第一希望合格に導いていく。 ②高い志を抱かせ、持続させ、実現に導いていくための取組を充実する。 ③アクティブラーニングやICT機器を活用した授業実践を推進し、授業改善に努めて学力の向上を図る。</p>	<p>・生徒の主体的学習態度を育成することにより学力の向上を図り、希望進路を実現する。</p> <p>・すべての教員が指導内容の定着のための授業方法の工夫と授業改善に取り組み、授業力を高める。</p>	<p>①-1 朝学習を計画的に実施し、朝学習ノートを定期的に点検する。 ①-2 効果的な課題の設定等により家庭学習習慣を向上させ、学習成績の向上につなげる。 ①-3 英検等の各種検定試験の受検を奨励する。 ②-1 「スタディサポート」「実力診断テスト分析」「外部模試」等のデータに基づく個別指導を行う。 ②-2 進路希望別補習を実施する。 ②-3 多様な入試スタイルに合わせた進路相談や個別指導を行う。</p>	<p>①-1 授業以外の学習時間 ①-2 各学期の成績状況の推移 ①-3 各検定試験の受検・合格状況 ②-1 個人面談の実施状況 ②-2 補習の開設数と参加者数 ②-3 3学年の進路結果</p>	<p>①-1 生徒による授業評価アンケートを全科目で実施し、結果を各教科で考察する。 ③-2 授業研究月間を年間2回設定し相互授業参観や研究授業を実施するとともに、「未来学び」事業参画に伴う公開授業を実施する。 ③-3 学力向上及び授業力向上のための研修会を実施するとともに、校外の研修会への参加を促す。</p>	<p>・コロナ禍においても、進路に関する高い志をもち希望実現のために努力を惜しまない生徒は状態は維持できた。 ①-1 年間出校日数168日に対して132日の朝学習を実施。実施率78.6%。学校評価アンケートでは、家庭学習時間は平日1時間から4時間が25.3%(25.2)、休日2時間以上20.6%(21.3)。 ①-2 各学期の成績優良者数は1学期108人(110)、2学期112人(101)。 ①-3 各種検定試験の合格者数は英検33名(11)、漢検25名(21)、N検0人(0)、情処検・PC検47名(71)。 ②-1 各担当が最低2回の二者面談、1回の三者面談を実施。 ②-2 進学講座は3学年15講座(30)146人(123)、2学年10講座(20)136人(207)、1学年7講座(6)66人(29)、補習も各学年組織的に実施。 ②-3 3学年の進路状況は4大123(117)、短大16(20)、専門126(125)、就職23(27)、未定29(32)。 ・感染防止に努めながらも、アクティブラーニングやICT機器を活用した授業実践を推進した。 ③-1 授業がだいたい理解できていると肯定的に回答した生徒は全体の72.1%(67.1)であった。 ③-2 11月に校内研究授業(国、地公、数2、理、保、英2)、及び指導主事訪問による研究授業(数2、英)を実施。 ③-3 ベネッセによる進学講演会、ICT機器などの職員研修会、メディアラボや実力診断テストの分析研修会を実施。 ③-3 進路情報研究会などへ派遣。 ③-3 教育課程委員会を9回開催、R4入学生の教育課程の講座開設準備等。</p>	A	<p>☆自学自習の習慣を拡充する →朝学習の継続 →検定試験の奨励 →戦略的な課題付与</p> <p>☆進路に関する高い志を育成し、維持させる →個別面談の実施による生徒理解 →学習に関するデータの有効活用 →進学補習の系統的戦略的实施 →模擬試験の有効活用</p>
2	<p>【現状】 ①全教職員の共通理解の下、一丸となった生徒指導が行われ、学校の秩序が確立されている。 ②真面目で礼儀正しく、素直な生徒が大多数を占め、中学校や地域からの評価も高い。 ③部活動の加入率が90%を超え、生徒の学校生活の充実をもたらしている。</p> <p>【課題】 生徒の活動が停止した2か月間を踏まえ、以下の課題に効果的に取り組む。 ①情報モラルや交通マナーを身につけさせる指導を充実する。 ②心の悩みを抱える生徒に対する教育相談機能の充実や人間関係形成能力の育成を図る。 ③生徒会活動、部活動、学校行事に主体的に取り組ませる工夫を検討する。</p>	<p>・生徒の自律心を高め、安全・安心で秩序ある教育環境を維持する。</p> <p>・部活動、生徒会活動、学校行事を活性化させ、豊かな人間性を養う。</p>	<p>①-1 全職員による登校時の立哨指導や校外巡回指導を継続する。 ①-2 外部講師による種々の講演や講義、講座を実施して、生徒や保護者を啓発する。 ②-1 生徒の実状把握に関する調査を年2回以上実施し、遅滞なく生徒の課題に対する指導・支援を行う。 ②-2 スクールカウンセリングの機会を増やす。</p>	<p>①-1 交通事故発生件数及び遅刻状況と皆勤者数 ①-2 特別指導の発生件数と指導対象人数の推移 ②-1 いじめ実態調査結果、学校評価アンケート結果(学校生活への意識) ②-2 カウンセリング実施結果</p>	<p>・教員の指導と生徒の真面目な取組により良好な学校生活が維持されている。 ①-1 交通事故は発生件数21。2学期の1日当たりの平均遅刻者数は2.1人(3.5)であった。1、2学期の各皆勤者数は1年273、169(236、174)、2年257、167(188、127)、3年269、153(186、128)であった。 ①-2 特別指導の件数は4件7名(3件3名)であった。 ②-1 生徒同士の人間関係が良好と回答した生徒は92.9%(90.8)、本校に入学して良かったと思う生徒は78.4%(72.4)であった。 ②-2 スクールカウンセラーを招聘し年間15回のべ48件※予定含む(18回のべ59件)のカウンセリング機会を提供、職員研修会を1回実施し、生徒や保護者の心の不調を軽減。</p>	B	<p>☆安全で安心な学校生活を送れる教育環境を維持する →交通安全教育、非行防止教育、健康教育、道徳教育、人権教育の継続発展</p> <p>☆教育相談機能のさらなる充実を図る →外部機関との連携拡充 →中核となる教職員の育成</p>	
3	<p>【現状】 ①保護者への連絡手段や教育内容を伝える機会は複数設定されており、迅速で的確な情報提供の基盤はできている。 ②ホームページには一定のアクセスがされている。 ③中高連携は活発に行われており、その成果は比較的高い入試倍率に表れている。また、部活動が主体となったボランティア活動や地域との交流が活発であり、関係者から高い評価を得ている。</p> <p>【課題】 ①保護者との連携体制の整備を進める。 ②最新の情報を速やかに提供するとともに、本校の魅力を効果的に発信するなど、ホームページの利便性を高める。 ③中高連携や地域との交流、生徒募集活動の効果的な充実を図る。</p>	<p>・多角的で迅速な情報発信と丁寧な対応により、保護者からの信頼を高める。</p> <p>・中高連携や地域との交流を進展させ、本校の特長への理解をさらに深める。</p>	<p>①-1 メール配信システム加入者及び情報発信・問合せ対応回数を増やす。 ①-2 学年保護者会を時季に応じて開催する。 ②-1 各担当によるHPの更新回数を増やすとともに、新たな情報発信ツールの構築を検討する。</p>	<p>①-1 メール配信システムの運用状況 ①-2 学年保護者会の開催状況(参加者数)及び学校評価アンケート結果(情報発信) ②-1 HPへのアクセス数</p>	<p>・本校に入学して良かったと思う保護者の割合は89.8%(90.0)であり、一定の満足度は得られている。 ①-1 メール配信システムの登録者数は1,923人(1,378)で、のべ26件(21)の情報を発信した。 ①-2 学校の情報が良く公開されていると答えた保護者の割合は70.2%(70.4)。 ②-3 開設以来のHPへのアクセス数は1,207,862で、今年度のアクセス数は479,656(35,140)であった。</p>	A	<p>☆保護者の学校への信頼と関心を一層高める →ホームページの利便性の向上 →ホームページの記事更新頻度向上 →メール配信システム加入者を増やす →通知等の情報のメール配信 →各種保護者参加行事の改善</p>	
					<p>・中学校関係者や地域関係者の本校への信頼を維持できている。 ③-1 広報生徒募集委員会が中心となって、学校公開・学校説明会を全校的な協力体制で実施した。学校説明会の参加者数は第1回321人(524)、第2回277人(172)であった。 ③-2 本校の志願倍率は10月1.48倍(1.53)、12月1.20倍(1.33)であった。 ③-3 新型コロナウイルス感染防止のため、近隣の施設との交流は吹奏楽部の演奏動画の提供や施設利用者のためのマスクの刺繍・コースター・ランチョンマットの制作にとどまった。</p>	B	<p>☆中高連携事業を一層充実させる →広報生徒募集係の組織力強化 →全教職員による魅力発信情報共有 →近隣中学校との連携強化</p> <p>☆緊密な地域交流を維持する →交流活動支援の継続・発展</p>	

学校関係者評価	実施日	令和3年2月26日
---------	-----	-----------

学校関係者からの意見・要望・評価等

・休校中のオンライン授業で、授業時のコンピュータ活用が図らずも促進されたことが生徒のアンケート結果から窺える。今年度行われたオンラインの活用で次年度以降も活かそうな点は、積極的に活用を続けられるとよいと思う。

・進路に向け、各種検定は評価につながるもので、1年生のときから全体に声をかけてほしい。

・授業の理解では、充実感を感じる生徒が少しずつ増えているのは、先生方の授業の取り組み方のお蔭であると受けとめていく。

・授業を参観した際に、生徒一人ひとりが熱心に取り組む様子を拝見した。先生方の日頃の努力の成果と感じさせていた。今後はさらに、情報化やグローバル化が進んだ予測不可能な社会を力強く切り拓く生徒の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善をお願いしたい。

・通常と違う日常を過ごしている生徒に対し、メンタル面でのケアや学習意欲の維持を図るのは容易なことではなかったと推察する。

・授業の様子からも、先生方と生徒との信頼関係を感じた。コロナ禍において家庭の状況もいろいろあるかと思うが、悩んでいる生徒にきめ細かい指導をお願いする。

・生徒のアンケートでは生徒会活動の活発さが今一つのような数値が出ているが、学校連絡協議会を通じた制服選択の変更や部活動での登下校時の服装の件など、生徒会活動の立派な成果も次々にながっている。次はその取組の全校での認知度を高めていくことが課題だろうか。生徒だけではなく、先生方もスポークスマンの一翼を担われることが重要と思う。

・学校ホームページへのアクセス数やメール配信システムの登録者数が増加しており、保護者や中学校関係者に支持され、よい傾向にある。

・今年度は学校の様子を見られる機会が少なかったため、ホームページでの情報発信はよい方法だと思う。

・今年度はコロナ禍のため、中学校や地域との交流は大変だったと思うが、情報交換が常に行えるようにお願いしたい。

・今後は、コロナ禍での連携方法について共に考えて、交流を一層深めて行ければと思う。

・そうか光生園としては、これまでのような交流が叶わなかったが、それでも、できる限りの対応を考え、協力していただき、感謝している。感染収束後、以前のように楽しく交流できることを願う。